

秋田県・甘粛省文化交流事業の概要

海を隔てて3,000kmの交流、はじまる!

1982年

昭和57年8月5日、秋田県と甘粛省は友好提携を調印しました。県と同時に秋田市と蘭州市が、平成12年11月には鹿角市と武威市涼州区が友好提携を結んでいます。以来、県と省は、農業、医療、環境などの各分野で交流を続けてきました。

シルクロードに魅了!「甘粛省文物展」の開催

1990年

甘粛省はシルクロードに位置し、世界遺産である敦煌莫高窟をはじめ数多くの遺跡が世に知られており、貴重な文物の宝庫でもあります。平成2年には、こうした甘粛省の魅力ある文物を一堂に会した「天馬かけるシルクロードの秘宝 中国甘粛省文物展」がアトリオンで開催され盛況を博しました。

いよいよ文化交流がスタート!

2001年

平成11年、「秋田県と甘粛省友好交流事業発展に関する趣意書」により、人材育成と合同発掘調査の実施を目的とした文化交流事業を10年間続けることについて県省で合意しました。平成13年には「秋田県・甘粛省文化交流推進に係る協議書」により、秋田県埋蔵文化財センターから2名、甘粛省文物考古研究所から1名、甘粛省博物館から1名の相互派遣が開始され、「秋田県・甘粛省文化交流事業」がいよいよ本格的にスタートしました。

合同発掘調査の実現!

2003年

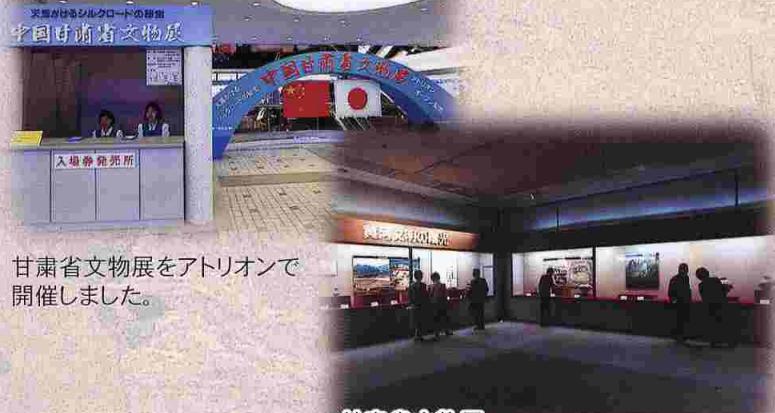
武威市磨嘴子遺跡の合同発掘調査は、平成14年、中国国家文物局から正式に許可されて実現することとなりました。これまでに県省が培ってきた友好交流の実績が認められた結果です。平成15年から平成17年の3か年にかけて行った合同発掘調査では、数々の貴重な発見がありました。また、平成16年8月には、チャーター便による「秋田県・甘粛省文化交流県民の翼」によって、180名近い秋田県民が甘粛省の地を訪れました。この中で磨嘴子遺跡の発掘現場を実際に見学するという機会にも恵まれました。

平成18年度からは、秋田県埋蔵文化財センターから1名のほか、秋田県立博物館からも1名の交流員の派遣が始まりました。平成18年度までに県省あわせて24名に及ぶ交流員が派遣され人材の育成が図られています。

さらなる県省の文化交流の推進へ!



佐々木知事(中央左)の時代です。



甘肃省文物展をアトリオンで開催しました。

甘肃省文物展



趣意書調印式

板東副知事
(当時・左から6番目)
が団長でした。



交流員のアパート



仏像の修復

1年目の交流員は甘肃省博物館で文化財の修復などを行いました。

県交流員には省博物館のアパートの一室がそれぞれ与えられました。



交流員の部屋



調査で立ち寄った農家

2年目の交流員は省内の分布調査に参加しました。



合同調査着式典

小野寺教育長(当時)が参加しました。

県交流員は毎日、省の職員を対象に日本語教室を開催しました。



日本語教室

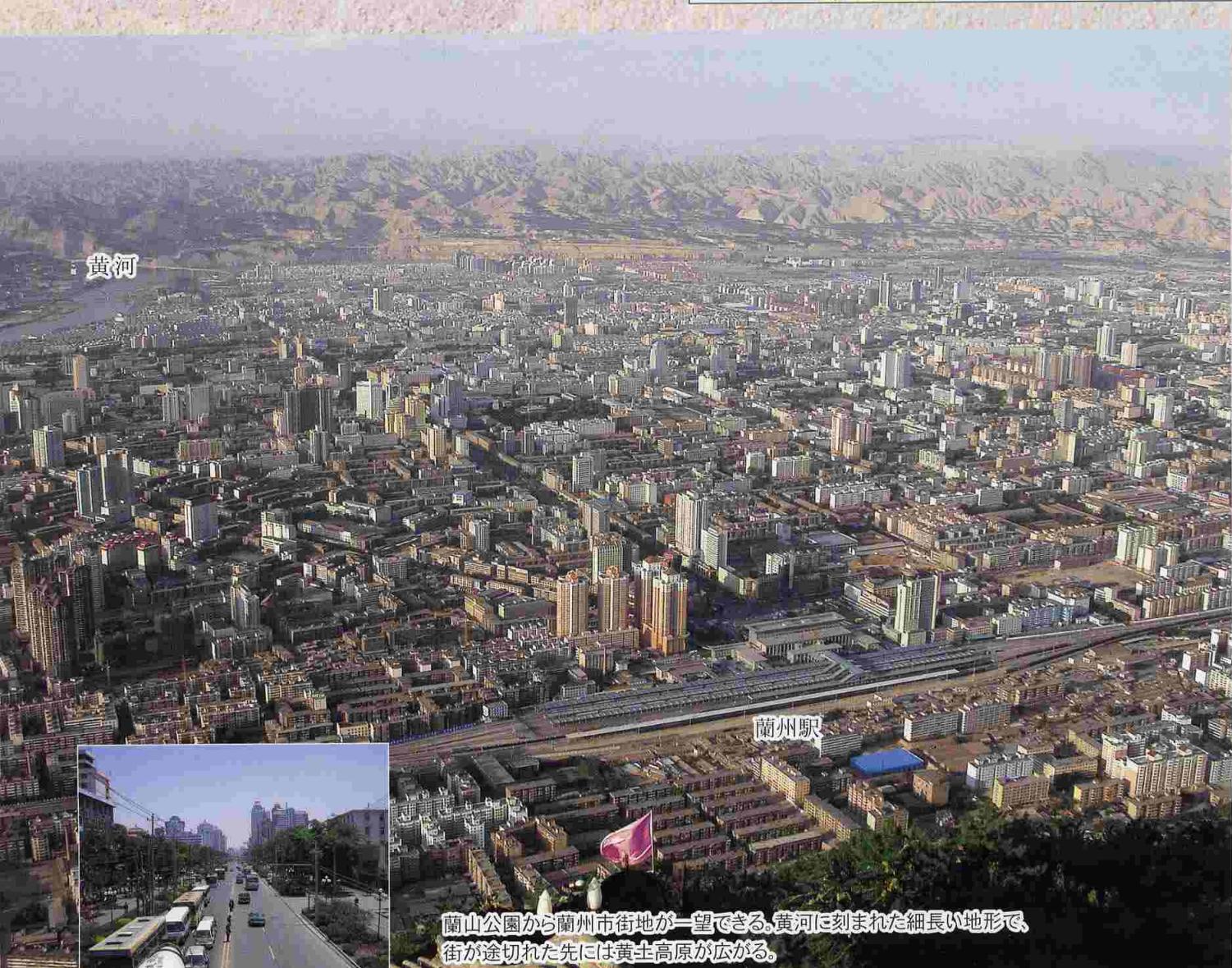
第2章 甘粛省の概要

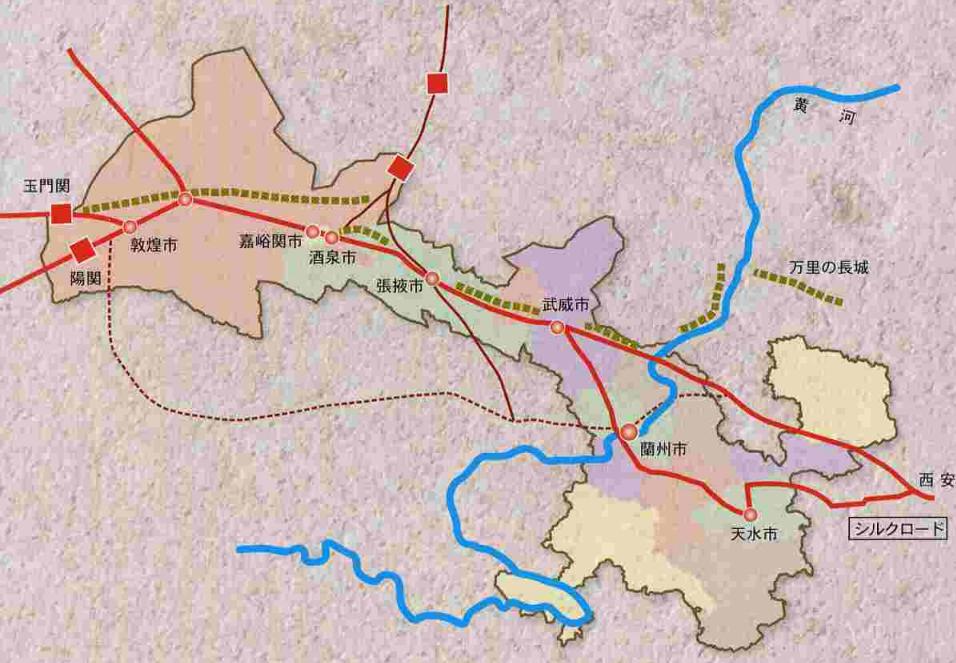
中国西北部、洋の東西を問わず商人、僧侶、旅人たちが行き交ったところ

甘粛省はとても広く、日本がすっぽりと入ってしまうくらいです。秋田から日本海を越えて3,000キロ、はるか西北の大地、黄河の上流域に栄える省です。飛行機で行けば、窓からは黄色い黄土高原が果てしなく続きます。省都蘭州市は黄土高原に突如現れる大都市です。

甘粛省は、蘭州市のほか、世界文化遺産の莫高窟や陽関がある敦煌をはじめ、張掖、酒泉、武威などのオアシス都市が河西回廊上に繁栄し、省内にある優れた文化遺産は今なお世界中の人々をひきつけ、一大観光地となっています。

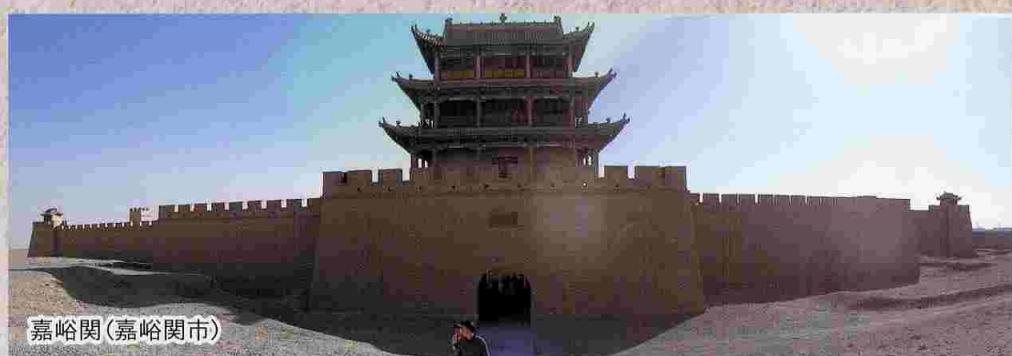
気候は、南部から蘭州市付近までは典型的な大陸性気候です。しかし、蘭州市から黄河を越えて西に向かうにつれ、荒涼とした砂漠が広がり始めます。合同発掘調査の行われた磨嘴子遺跡のある武威市は、この砂漠のなかにあります。





甘肃省とシルクロード(河西回廊)

※漢代に設置された河西四郡は現在の敦煌・酒泉・張掖・武威にあたる



～甘肃省の考古学～

甘肃省には数多くの文物や遺跡が今も眠っています。長城や関所跡、石窟寺院などの壮大な建築物が今でも威厳を誇っています。また乾燥した気候は、絹製品や木製品など腐朽しやすい文物をよく保存するため、中国考古学界でも非常に注目されている地域です。

甘肃省を考古学の世界で最初に有名にしたのは、19世紀のスウェーデンの考古学者アンダーソンでしょう。河南省での仰韶文化の発見者でもあるアンダーソンは、さらに西方にその起源を求め、ねらいどおり、甘肃省で仰韶文化が栄えた証である彩陶を数多く発見しました。これにより豊かな彩陶文化が世に知られるようになったのです。

